

2025 年 10 月 22 日

認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会

報道関係者各位

【10 月 24 日は「世界ポリオデー」】

**不要なハガキや切手で、ポリオ感染拡大防止に貢献できる
「ハガキ・切手回収キャンペーン」を実施します**

10 月 24 日（金）は「世界ポリオデー」です。根絶まであと 1%と言われているポリオですが、最後の一步が遠く、昨年は紛争地域のガザで、25 年ぶりに感染が認められてしまいました。途上国の子ども達にポリオをはじめ、はしかや破傷風などのワクチンを届け、子どもの命と未来を守る子どもワクチン支援活動を行う「認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」（以下 JCV）では、ポリオ根絶に向けて感染拡大防止にさらに力を入れるべく、「ハガキ・切手回収キャンペーン」を 10/24（金）から実施します。



【不要なハガキや切手がワクチンに換わり途上国の子どもの命を救う！】

ポリオなどの感染症から途上国の子どもたちの命を救う活動に気軽に参加いただけるのが、JCV の「ハガキ・切手回収による子どもワクチン支援」です。額面が古くなってしまったり、使う機会がなくなってしまう、不要になったハガキや切手、書き損じやプリントミスをしてしまったハガキをご寄付いただくと、ワクチンに換えて支援国の子ども達に贈ります。昨年は 1 年間で、ポリオワクチン（1 人分約 20 円）約 521,719 人分（10,434,363 円分）ものご支援につながり、途上国の多くの子どもを感染症から守ることができました。

ハガキ・切手で 途上国に子どもワクチン支援



【ご参加方法】

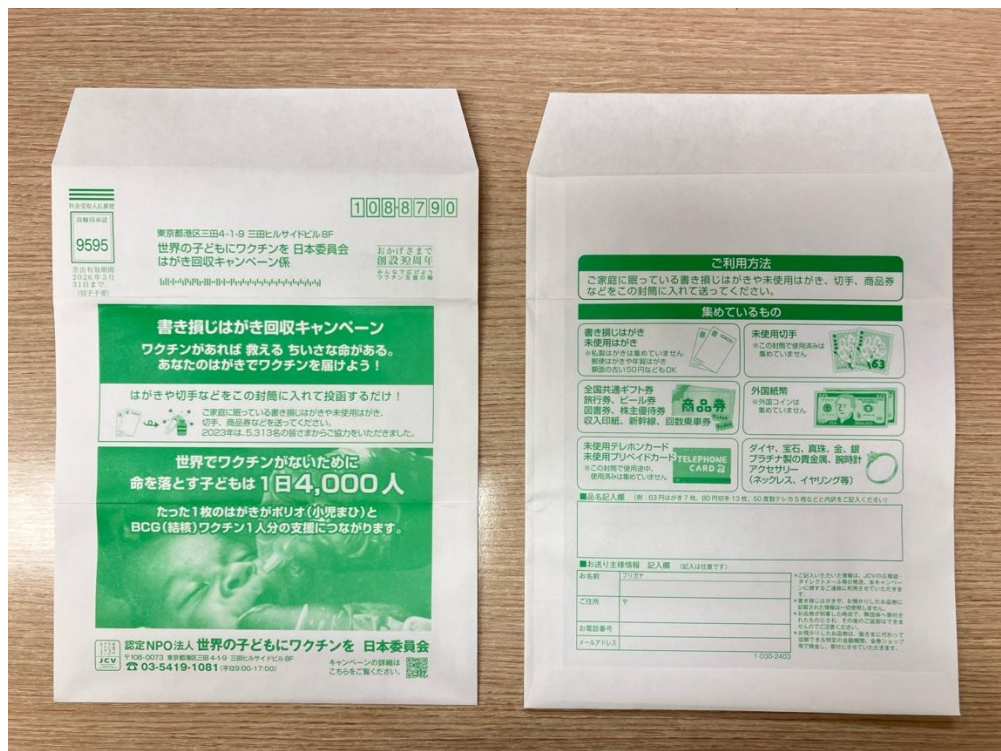
①お手元の封筒やレターパックなどで送付

お申し込みなどの必要なく気軽にご参加いただけます。（※送料はご負担ください）

②回収キャンペーン専用封筒で送付

ご希望の方には、送料不要の「回収キャンペーン専用封筒」をお送り差し上げます。

お申し込みはこちら➡ (<https://www.jcv-jp.org/contact/inquiry>)



③スターターキットのお申し込み

企業・団体さま向けに、回収キャンペーン専用封筒 20 枚を募金箱のように設置できるスターターキット（縦 7.5cm×横 19.5cm×高さ 21.5cm）を用意いたしました。継続的に回収・送付される際、必要な時に利用でき大変便利です、是非ご活用ください。

お申し込みはこちら➡ (<https://www.jcv-jp.org/contact/inquiry>)



<回収対象>

- 未使用・書き損じハガキ
- 未使用切手（外国の切手も対象です）
- 金券、外国紙幣
- 未使用・使用済みテレホンカード・プリペイドカード
- 貴金属、腕時計、アクセサリ類

※1：額面が古いハガキや往復ハガキ、記念切手なども回収しています。

※2：既に投函されたハガキ、私製ハガキ(ポストカード)は対象となりません。

※3：郵便証紙、後納郵便のスタンプなどは対象ではありません。

<送付先>

〒108-0073 東京都港区三田 4-1-9 三田ヒルサイドビル 8F
世界の子どもにワクチンを 日本委員会 ハガキ回収キャンペーン係

<その他>

- 受領書をご希望の方は、送り先メールアドレスを担当者名と一緒にお知らせください。
後日、メールにてお送り差し上げます。

- お品物が到着した時点で、弊団体へ寄付されたものとされ、ご返却はできかねます。
送付の際はご注意ください。

【ポリオ根絶のために】

ポリオは、主に 5 歳以下の子どもが感染し、ウイルスにより脊髄の灰白質が炎症を起こす感染症です。運動神経に関わる細胞が破壊され、筋肉の麻痺が起こることもあります。1960 年に日本でも北海道・東北を中心とした大流行を起こすなど、かつては世界的に猛威を振るっていた感染症でしたが、ワクチン接種の広がりや衛生環境の改善などポリオ根絶に向けた取り組みが行われた結果、2020 年以降、野生株の常在国は、わずか 2 か国のみとなっています。

しかし、2024 年、イスラエルとの戦闘により医療が滞っていたパレスチナのガザ地区で、約 25 年ぶりに発症者が確認されました。この時はワクチンの緊急接種で流行を防ぐことができたが、世界からポリオを根絶しない限り、年間の発症数は 10 年以内に 20 万件を上回ると予想されています。G7 広島サミットでも「世界ポリオ根絶計画(GPEI)に対する継続的な支援を求める」という首脳宣言が発表されました。

ポリオ根絶までのあと一步を進め、世界中で感染症の脅威にさらされているちいさな命を守るためには、継続した子どもワクチン支援が必要となります。活動への皆さまのご協力とご参加をお待ちしています。



【1日 4,000 人の子どもたちが予防可能な感染症で亡くなる現実とワクチンの必要性】

ポリオ、結核、百日咳などの感染症は、途上国においては日常の脅威として、日々、多くの子どもたちの命と笑顔を奪い続けています。その数は1日 4,000 人。20 秒に1 人の子どもの子どもたちがワクチンの接種をすれば防げるはずの病気で亡くなっています。

私たち、「世界の子どものワクチンを 日本委員会」(JCV) は、途上国の子どもたちにワクチンを届け、彼らの命と未来を守る活動「子どもワクチン支援」を行う民間の国際支援団体です。感染症のワクチンの多くは1 人分 20 円、高いものでも約 280 円ととても安価です。私たちは UNICEF や各国の保健省と協力し、1994 年の創設以来、1 億 3,377 万 3,465 人の子どもの子どもたちにワクチンを届けてまいりました。

皆さまのご支援により、2024 年は、ミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツの4 カ国に1 億 2,348 万 9,371 円分のワクチンやコールドチェーン機器を贈ることができました。



【JCV 団体概要】

- 団体名：認定 NPO 法人 世界の子どものワクチンを 日本委員会
- 代表：理事長 剣持 睦子（ケンモチ ムツコ）
- 創設者：会長 細川 佳代子（ホソカワ カヨコ、細川護熙元首相夫人）
- 本社所在地：東京都港区三田 4-1-9 三田ヒルサイドビル 8F
- URL：www.jcv-jp.org
- 設立：1994 年 1 月 29 日
- スペシャルサポーター：
竹下景子（ワクチン大使・女優）、和田毅（元プロ野球選手）、早見優（歌手・女優）、
三國清三（シェフ・株式会社ソシエテミクニ 代表取締役）、進藤奈邦子（WHO 健康危機
管理プログラムシニアアドバイザー）、鏡リュウジ（翻訳家・心理占星術研究家）、安藤
優子（ジャーナリスト）、キャップ革命 ボトルマン（株式会社タカラトミー）

<お問い合わせ先>

認定 NPO 法人 世界の子どものワクチンを 日本委員会

広報・啓発・教育グループ 乙津

TEL：080-3094-8232 FAX：03-5419-1082 E-mail：otsu@jcv-jp.org